

復興祈念「孝情文化ピースフェスティバル」岡山1万名大会大勝利

岡山の各界代表らが「岡山平和宣言」を採択



岡山大会の全景とメインスピーチをされる文善進世界会長

7月22日、岡山市のジップアリーナ岡山で「復興祈念・2018 孝情文化ピースフェスティバル in OKAYAMA」が盛大に開催され、岡山県各地から集まった約1万人の参加者が会場を埋め尽くしました。

このたびの西日本豪雨により15府県で220人以上が犠牲になり、およそ4500人が避難生活を余儀なくされています。今回の大会は、多くの人命被害や水害を受けた岡山県の1日も早い復興を祈念すると共に、家庭再建を通じた世界平和の実現をめざして行われました。

記録的な猛暑にもかかわらず、1万人余りの参加者たちは開場2時間前から行列をつくり、会場の門が開くとともに先を争って席を埋め尽くしました。会場は、天の父母様と真の父母様の真の愛が充満し、参加者たちは「孝情」の心情で大会が始まるのを待ちました。

大会は午後1時ちょうどにスタート。清平役事の紹介映像が上映されたあと、讃美役事が始まりしました。1万人のうち約7000人が新規の参加者でしたが、清平役事の説明を通してその意味をよく理解し、皆が一生

懸命に讃美役事に参加しました。

本大会では、司会による開会宣言に続き、このたびの西日本豪雨の犠牲者のため全体で黙祷を行いました。

輝かしい岡山の歴史を紹介する映像「世界平和は岡山から」が上映されたあと、古代・吉備王国の王をまつる舞踊「うらじゃ」が勇壮な歌とともに披露されました。

続いて「平和のセレモニー」が行われ、各界の代表が登壇したあと、青木大・大会実行委員長が「岡山平和宣言」を読み上げ、①家族を大切に、隣人との絆を深める②先祖を尊び、親孝行する③子供を愛し、正しく養育する④為に生きる生活を通して、平和な世界を築く——ことを宣誓。その後、登壇者がそれぞれ「岡山平和宣言」のボードに署名しました。この宣言文の趣旨に賛同し、署名した人が1万人を超えたことが司会から発表されました。

岡山の聖歌隊「スタークレイン」が韓半島の平和統一を念願する「統一アリラン」を披露したあと、「韓日家庭」の祝福二世の女子大学生がプレゼンテーション

を行い、「日韓友好こそ、世界平和のモデルになると考えています。怨讐関係を越えた両親の愛を受けて、世界平和がいかなるものなのかを私は実感しました」と述べました。また男子大学生が、祝福二世として生まれ大学進学するまでの経緯を紹介したうえで、育ててくれた両親への手紙を朗読すると、会場は感動に包まれました。

続いて、二世の中高生たちが舞台で旗を持って登壇し、天の父母様と真の父母様に対する孝情の心情を発表したあと、力強いダンスを披露しました。次に女性歌手のデュオと青年たちがコラボして「希望の世界へ」の歌とダンスを披露しました。

“世界平和は真の家庭から”

馬場明子・大会実行委員の代表報告祈禱のあと、徳野英治・家庭連合会長が主催者挨拶を行いました。

徳野会長はその冒頭、西日本豪雨の被害者に対して

追悼と慰労の言葉を述べたうえで、真のお母様が日本赤十字社と被害に遭った家庭連合の教会員に義援金を寄付されたことを報告。また、今大会のテーマ「世界平和は真の家庭から」に触れたうえで、日本に蔓延している社会問題を取り上げながら、真の家庭運動の重要性を強調しました。徳野会長は最後に、「きょうの大会のメインスピーカー、文善進・世界平和統一家庭連合世界会長を通して伝えられる人類の真の母・韓鶴子総裁のメッセージを傾聴してくださいますことをお願いします」と語り、「(大会を通して)日本における悲劇的な家庭問題に対する解決策を見出し、日本の新たな希望の道を見出す機会としてまいりましょう」と呼び掛けました。

来賓代表が祝辞を行い、映像「天地人真の父母様と日本統一運動」が上映され、セネガル大会やヨーロッパ大会での真のお母様の様子や「真の家庭」の意義が紹介されました。

文善進世界会長の紹介が行われたあと、会場全体の



①主催者挨拶をする徳野会長 ②「平和のセレモニー」を行う参加者代表 ③中高生のダンス「孝情の光」
④「世界平和は私から」と訴える女子大学生

“天の父母様と真の父母様を中心とした 新しい理念だけが地球星を救う道”

盛大な拍手に迎えられ、文善進世界会長が登壇されました。

文善進世界会長は記念メッセージの冒頭、「集中豪雨により被害を受けられた方々に悲痛なる私の心情を伝えます」と述べられたうえで、ボランティア活動を行っている家庭連合の青年たちを激励。また地球環境問題の深刻さに言及しながら、天の父母様と真の父母様を中心とした新しい理念だけが地球星を救う道だと語り、参加者たちと共に西日本豪雨の犠牲者の魂の安息と世界平和を願う黙祷を捧げられました。

また、日本の食口たちのこれまでの苦勞に対し、深くお辞儀をして心からの感謝の気持ちを表わされ、参加した食口たちは涙と拍手で文善進世界会長の心情に応えました。

続いて文善進世界会長は、西日本豪雨の甚大な被害に心を痛めておられる真のお母様のメッセージを伝えたくて、お母様が「日本宣教 60 周年記念 神日本家庭連合希望前進決意 2 万名大会」（7 月 1 日、さいたま市）で語られたみ言を代読されました。

その中で文善進世界会長は、「（真のお母様が）1943 年に独り娘として誕生しました」と述べる時には「アーチュ！」と言われ、拍手をして参加者全体に同意を求められました。また、「グローバルリーダー」として巣立ち始め

た二世について「私たちの希望です」と述べた時や、地球環境問題の解決のための真のお母様の取り組みに言及する時にも「アーチュ！」と唱え、感謝の拍手を送られました。

文善進世界会長は「私たちが一つとなり家庭連合とともに宇宙平和連合、青年連合、女性連合、すべての機関が世界平和のために前進して飛躍する日になるよう祝願します」と語ったうえで、「一緒に頑張りましょう！」と呼び掛けられ、最後に「韓国・天正宮博物館におられる真のお母様に聞こえるよう大きな拍手をお捧げしましょう！」と述べ、メッセージを終えられました。

記念メッセージのあと、文善進世界会長・朴仁渉様ご夫妻に感謝の花束が贈呈されました。

その後、真のお母様が西日本豪雨で被災した教会員のため寄付された義援金 1000 万円の目録を文世界会長が青木実行委員長に手渡されました。

続いて、金満辰・大会実行員会顧問のリードで億万歳四唱を行うと、大会の勝利を祝賀する祝砲とテープが会場を覆いました。

最後に、大会は内外貴賓と参加者 1 万人の満面の笑みと共に「岡山復興ファイト！」と叫んで記念撮影を行ったあと、文善進世界会長を先頭に来賓たちが退場し、司会者の閉会宣言で大会の幕が下りました。



①両親に感謝の手紙を奉読する男子大学生 ②女性歌手のデュオと青年たちの「希望の世界に」 ③岡山の伝統舞踊「うらじゃ」
④「統一アリアン」を披露する岡山教区の聖歌隊

「復興祈念・2018孝情ピースフェスティバル in OKAYAMA」大会の祝勝会開催

「復興祈念・2018 孝情ピースフェスティバル in OKAYAMA」を勝利された文善進世界会長ご夫妻は、大会会場から 30 分ほど離れた岡山教区本部（岡山市）の聖殿に準備された祝勝会場に移動されました。午後 6 時、文善進世界会長ご夫妻が登壇されたあと、参加した 200 人全体で真の父母様に敬拝を捧げ、祝勝会が始まりました。

岡山教区の祝福三世 2 人が祖母と共に文善進世界会長ご夫妻に花束を贈呈したあと、世界会長ご夫妻は壇上に準備された祝賀ケーキをカットされました。続いて、青木大・岡山教区長と馬場明子・教区婦人代表が、陶器で作られた一対の鶴の礼物を世界会長ご夫妻に奉呈しました。

堀正一副会長による代表報告祈禱のあと、徳野英治会長が感謝の辞を述べ、「真のお母様は、韓国の天正宮博物館で大会のすべての様子をご覧になりました」としたうえで、文善進世界会長について「真の子女様を代表し、真のお母様の傍らで孝女の姿で侍られると共に、世界会長として期待と希望の対象となり、お母様に忠孝を尽くされる姿がとても美しいです」と語りました。

また、今大会を勝利するなかで起こった「3 つの奇跡」に言及。① 2 週間前の記録的な豪雨被害を乗り越えて 1 万名大会を勝利した② 36 度を超える猛暑にもかかわらず、一人も倒れる人がいなかった③ 真のお母様が文善進世界

会長を送ってくださり、大会を勝利に導いてくださった——ことを強調しました。

さらに徳野会長は、祝勝会場に向かう車中でのエピソードに触れ、文善進世界会長が電話をくださった真のお母様に対し、「すべてお母様のおかげです」と勝利の栄光をお母様に捧げられる一方、お母様は何度も「善進、お疲れ様」と労いの言葉をかけられたことを紹介。最後に「善進様がおられるので、私たちの統一運動は大丈夫です。VISION2020 の勝利は問題ありません」と力強く語りました。

続いて、平和大使である地元議員が挨拶し、「1 万名大会勝利を心よりお祝い申し上げ、韓鶴子総裁に感謝を申し上げます」と述べたうえで、「文善進世界会長は、『冬のソナタ』で日本でも有名になった女優チェ・ジウに似ています。私はチェ・ジウと一緒に写真を撮ったことがあるのでよく分かります」と語り、参加者たちを大笑いさせました。

一方、地元の大学教授は「きょう、ここに来る前に文鮮明・韓鶴子総裁ご夫妻について説明を受けました。韓国と日本、そして中国と北朝鮮を支援してくださり、心より感謝申し上げます。ご夫妻の生き方を手本にし、岡山県民としてこれからもより一層頑張ってます」と決意を表明しました。

続いて、李成萬副会長の「勝利提議」（乾杯の音頭）で



①文善進世界会長ご夫妻に花束を贈呈する祝福三世たち ②勝利のケーキをカットされる文善進世界会長ご夫妻
③礼物を奉呈する青木教区長と馬場婦人代表 ④祝勝会場に参加した平和大使たちと祝福家庭

“岡山1万名大会の勝利は 真のお母様のおかげです”

晩餐が始まりました。

晩餐が終盤にさしかかるところ、青木教区長が大会報告を始めました。その中で青木教区長は「今回の大会における出発の動機は、『中断なき前進』と『ウリヌン・ハナダ（私たちは一つ）』、そして『チャレンジ精神』の3つでした。そして、戦略は絶対精誠でした」と説明。また、岡山教区は2013年の「基元節」以降、毎年、世界貢献を勝利しながら、1万名大会のため500人規模から5000人規模までの大会を段階的に勝利して徹底的に準備する一方、教区のすべての教会が21日間の徹夜精誠を捧げながら大会を準備したと報告しました。最後に、岡山県だけで60人余りが犠牲になった集中豪雨の被害があったにもかかわらず、VIP50人をはじめとして1万人を超える参加者があったと述べながら、これから今大会の参加者たちと共に「世界平和は岡山から」という基準でVISION2020を勝利することを決意しました。

続いて、岡山教区の馬場婦人代表と山田文香・成和学生部長が感想を発表しました。馬場婦人代表は、教区のすべての食口たちが一致団結して真の父母様を証しながら、大会に非常に多くの新規のゲストを参加させたと報告。また山田成和学生部長は、父母たちの姿に子女たちが感動して積極的に活動したと述べたうえで、「これからは二世た

ちが先頭に立ち、救国救世基盤を必ず奉獻します」と決意を表明しました。

祝賀公演では、愛媛の聖歌隊「天声」が「Hail Holy Queen」、「We Love True Parents」の2曲を披露。続いて、バイオリニストの青年が、文善進世界会長のお好きな歌「You Raise Me Up」とその他1曲を演奏し、本大会で会場の雰囲気を盛り上げた女性歌手デュオは「Let it go」など2曲を熱唱し、参加者たちから熱い喝声を受けました。

祝賀公演のあと、プログラムにない“サプライズ”がありました。祝賀公演の出演者たちが改めて登壇し、バイオリンの「ハッピーバースデー」のメロディーに合わせて全員が合唱するなか、文善進世界会長の前に誕生日ケーキが届けられました。

文善進世界会長は目を大きくして感激され、参加者たちが歓声を上げるなか、岡山教区と第4地区、そして本部が準備した誕生日プレゼントが文善進世界会長に贈呈されました。そして最後に、二世青年たちが準備したプレゼントをお渡しすると、文善進世界会長はとても感激され、参加者たちに手を合わせて感謝の気持ちを表されました。

参加者たちの熱い拍手と歓声のなか、登壇された文善進世界会長は「神日本の岡山大会勝利、おめでとうございます」



①大会報告をする青木教区長 ②バイオリンの演奏 ③愛媛区の青年聖歌隊「天声」
④誕生日“サプライズ”に感激される文善進世界会長 ⑤真のお母様のみ言を伝えられる文善進世界会長

“中断なき前進”と“ウリヌン・ハナダ”、 そして“チャレンジ精神”で勝利

ます。そして、すべての勝利を共に祝えることは栄光であり、誕生日を祝ってもらえたことも栄光です。そして何よりも真の父母様が皆さんに伝えてほしいと語られたみ言があります。『みなさん、お疲れ様でした。孝情文化のモデルとして勝利した皆さんの姿を見たお母様はとてもうれしいです』というみ言でした。多くの苦勞と困難があったこの地域から、むしろ私が皆さんを通して多くの希望と感動を受けました」と語られました。

そして、文善進世界会長は「岡山の被害状況の報告を聞きながら、とても胸が痛く、『大会がどうなるのか』と心配しながら、食口たちのために毎日祈りを捧げてきました。皆さんの姿は、私が今まで感じたことのない大きな感動でした。皆さんの偉大な姿の前に私が立っていることが申し訳ないほどでした。皆さん、本当にありがとうございます。1万名大会の基準は、真のお母様により立てられた大きな基準であり、日本と世界の様々な国が挑戦しています」と説明。「これまで、このような困難を乗り越えた大会はなかったと思います。孝情の心情を果たす大会もなかったと思います。多くの世代と国籍と民族が集まって一つとなった姿。ここに集まった皆さんの姿です。私が想像することができない多くの困難と心情を乗り越えて勝利した皆さんこそ模範家庭です。真の父母様のために精誠を尽くしてく

ださったことに本当に感謝いたします」と語られました。

最後に、梶栗正義 UPF-JAPAN 会長のリードで、参加者全員が VISION2020 勝利を決意する力強い億万歳三唱を行い、祝勝会は幕を下ろしました。

参加者の感想

●**国会議員**—若いパワーが溢れ、学生たちの堂々としたスピーチも素晴らしかったです。このように岡山から世界平和を発信するイベントが開かれたことにとても希望を感じました。

●**国会議員**—本当にこのように多くの人数がこの会場に集まったことは初めてで、新記録です。若者たちの力が溢れる素晴らしい大会でした。文総裁・韓総裁ご夫妻の偉大さを感じる大会でした。

●**市議会議員**—讚美役事に参加し、心も体も軽くなりました。また、文善進世界会長を通して大きな天運を受けました。これからも平和大使の活動を頑張って広げていきたいと思っています。



①教会員の自宅周辺の状況(7月7日頃、倉敷) ②被災直後の教会員の自宅2階の様子(倉敷)
③川の氾濫で基礎部分の土が削り取られた家屋(広島・三原) ④祝福家庭の被害状況について報告を受ける徳野会長(右奥。7月13日、総社家庭教会)

西日本豪雨被災地で支援活動を展開

7月5日から8日にかけて西日本を中心に降り続いた豪雨により、200人以上が犠牲となるなど、各地で甚大な被害が発生しました。家庭連合の教会員の中にも、祝福家庭の夫婦が聖和したほか、自宅や職場などが全半壊したり、床上・床下浸水の被害を受けた家庭が多数あり、避難生活を余儀なくされている教会員もいます。

このような西日本豪雨による被害について詳細な報告を受けられた真のお母様は、非常に胸を痛められ、西日本豪雨による一般の被災者と祝福家庭の被災者のため義援金をくださりながら、「全世界の食口が一つの心をもって支援をしなければなりません」と語られました。既に韓国とヨーロッパ大陸など全世界から多くの関心と激励とともに義援金が届けられています。

一方、被害発生直後から、被災地近隣の教会員が中心となって、被災した家庭の支援活動をスタート。被害が激しい第4地区(近畿・中四国)では、地区全体に支援活動への参加が呼び掛けられ、各地から青年・壮年の有志が支援に駆けつけています。

そんな中、7月13日、徳野英治会長は岡山、広島両県の被災地を訪れ、現地の責任者や被災した教会員一人ひとりの状況報告を受けました。岡山・倉敷市では、大きな被害を受けた教会員の自宅を訪問し、祈禱を捧げ、被災した教会

員を激励しました。

その2日前の11日には、李成萬副会長と方相逸復興局長が倉敷市内で大きな被害を受けた教会員の自宅を訪問。家財道具などの運び出し作業を手伝い、被災した教会員を慰労しました。

特に被害の大きかった岡山県倉敷市では、近隣の総社家庭教会(同総社市)のメンバーが連日、被災した教会員の家の片づけなどを行っています。14日から16日にかけては、岡山家庭教会の青年11人、兵庫・姫路家庭教会の姜熙滿教会長を含む13人、大阪の青年や本部職員など合計33人が支援活動に加わりました。20日からは、東京の青年たちが倉敷市内で一般家庭を対象に奉仕活動をしています。

広島県呉市では、尹宰成・北広島教区長を中心に青年メンバーなどが連日、教会員の家の片づけを実施。山口教区の青年部メンバー7人も、14日から16日にかけて同市内で支援活動を行いました。また島根県江津市では13日、浜田家庭教会の青年3人が被災した家庭の片づけを行っています。

今後は、復興支援活動が本格化していくのに伴い、家庭連合平和ボランティア隊UPeaceも、愛知や東京など第4地区以外からもボランティアを募り、被災地で支援活動を行っていく予定です。



①被災した教会員の家で祈禱する徳野会長(左から3人目) ②被災した家の片づけを行う李副会長(左)と方局長(7月11日、倉敷)
③浸水被害を受けた家を清掃する青年メンバー(7月13日、倉敷) ④被災家屋から家財道具を運び出す名古屋の青年メンバー(7月17日、倉敷)

真のお母様が日本赤十字社に義援金2000万円を寄付

真のお母様は西日本豪雨(「平成30年7月豪雨」)の被災者の支援と被災地の復興のため、2000万円を日本赤十字社(近衛忠輝社長)に寄付されました。

7月20日午後、真のお母様の名代として徳野英治会長と李成萬副会長が東京・港区にある日本赤十字社を訪問。同社の事業局パートナーシップ推進本部ボランティア活動推進室長の大野博敬氏に目録を手渡しました。

徳野会長は「韓鶴子総裁が豪雨被害を大変心配し、寄付をされました」と大野氏に伝えました。また徳野会長は、家庭連合の会員の被害状況について説明。7月13日に訪問した岡山県の会員の自宅が2階まで浸水した様子を生々しく語ったうえで、家庭連合平和ボランティア隊「UPeace」が現在、被災地で支援活動をしている様子を紹介しました。

李副会長は7月11日に被災者の自宅の家財道具やごみの片付けなどを手伝った様子を語りながら、「テレビで見ることと被災現場に行くことは全然違います。被災地は本当に大変です」と述べました。

大野氏は「この寄付金は、被災された方に間違いなく全額、配分されます」と語りました。



日本赤十字社の大野博敬氏(左)に義援金の目録を渡す徳野会長

【平成30年7月豪雨被害に対する義援金募集】

このたび西日本を襲った豪雨災害を受け、義援金を募集しています。全国の教会員の皆様の祈禱の精誠とともに、積極的なご支援をお願いいたします。

募集期間: 2018年7月12日(木)～8月10日(金)

送金口座: ゆうちょ銀行 記号: 10140

番号: 76685481

名義: 宗教法人世界平和統一家庭連合

※ゆうちょ銀行以外の銀行からの振込みは

店名: 〇一八(ゼロイチハチ) (普) 7668548



聖火式に集まった参加者

北海道・帯広で「神日本天運相統 孝情奉獻聖火式」 3000人が決意を新たに再出発

7月8日、北海道・帯広にある「聖火の郷」で「2018 神日本天運相統 孝情奉獻聖火式」が盛大に行われ、北海道の教会員を中心に約3000人が参加しました。前日には「雨」と予想されていましたが、当日朝早くに雨は止み、本式典が始まった午前11時頃には晴れ間も出るほどの良い天候に恵まれての開催となりました。

本式典に先立ち、地元・帯広の和太鼓グループによる力強い演奏や天父報恩鼓の演舞などのアトラクションに続いて、清平役事チームのリードで讃美役事が行われました。

本式典は、司会の安田公保・北北海道教区長の開会宣言でスタート。聖歌「手をつなごう」の斉唱と田中富広副会長による代表報告祈祷のあと、徳野英治会長が主催者挨拶を行いました。

その冒頭、徳野会長は「西日本で発生した豪雨被害の犠牲者のため黙祷を捧げましょう」と呼びかけ、参加者全員で黙祷しました。

続いて、徳野会長は「きょうの聖火式は、7月1日にさいたま市で開催された『神日本家庭連合 希望前進決意2万名大会』の勝利圏に連結された特別な聖火式です」と強調したうえで、真のお母様が2万名大会で語られたみ言のポイントを紹介しながら、「私たち祝福家

庭に願われている最大の責任と使命は、自らの氏族圏を中心に430双の祝福・神氏族メシヤを勝利することです。それこそが全ての人々を神様の子女として取り戻す唯一の道です」と述べました。

引き続き、^{イミョンガン}李命官・天宙清平修鍊苑副苑長が奉獻聖火式の恩恵について語り、「悪運を取り除き、天運を相統する聖なる儀式です。そして先祖の罪悪を清算する最高の先祖供養の儀式であり、個人・家庭の健康と幸福を祈り、すべての願いが成就されるよう祈願する儀式です」と説明。さらに「このような恩恵と祝福は人間の力では不可能です。創造主・天の父母様の力であり、人類の救世主・メシヤであられる真の父母様だけが可能なのです」と述べると、会場から大きな感謝の拍手が沸き起こりました。

介添え人が入場し、堀正一副会長が「告天感謝文」を奉読したあと、全国5地区の代表5人が「孝情奉獻書」を奉納。続いて、地区長・地区代表教区長が聖火壇に聖火を点火し、44万枚に上る奉獻書が天に奉獻されるなか、全体で所願成就祈祷を捧げました。

最後に、李成萬副会長の音頭で億万歳四唱を行い、聖火式は閉幕しました。



①

②



③



④



⑤

①主催者挨拶を行う徳野英治会長 ②聖火式のメッセージを語る李命官副苑長 ③孝情奉獻書を奉納する各地区の代表 ④清平役事を行う参加者 ⑤聖火を運ぶ各地区の代表

参加者の感想

愛媛教区・松山家庭教会 公職者(女性)

徳野会長から、7月1日に開催されたさいたま2万名大会大勝利の天運がこの聖火式に連結されたというメッセージをいただきました。真の父母様が霊的に臨まれ、日本をこよなく祝福し、愛で包んでくださっているようでした。先祖の罪の清算と自らの堕落性の悔い改めについて祈り始めた瞬間、涙がとめどもなく流れました。全てを許してくださる天の父母様、真の父母様、心から感謝申し上げます。新しい心情と決意で再出発してまいります。

兵庫教区・兵庫家庭教会 女性教会員

聖火式に参加する前日、「金」の孝情奉獻書を真の父母様の夢の実現と子孫繁栄を願い書かせていただ

きました。するとその夜、聖和した夫が隣に現れ、7色の星々をステキな夫と一緒に眺めました。私は孝情奉獻書のパワーを強く感じました。聖火式当日の役事では、チョウが飛び回って私から離れず、夫が絶対善霊として側にいるように感じられました。聖火式に参加できたことを心から感謝いたします。

広島北教区・福山家庭教会 公職者(男性)

まさに天運相統!天から最大の運勢をいただきました。心より感謝申し上げます。式典で「真のお父様を感じた」という食口が多く、聖火式の炎の画像を見ると炎の中にお父様を見ることができました。この天運と共に7月度の世界貢献を勝利し、2020年までに神氏族メシヤの責任を完遂していきます。



①天父報恩鼓の演舞 ②所願成就祈祷を行う参加者





① 2500人が集まった会場 ②メッセージを語る徳野英治会長 ③主催者挨拶を行う威鎮模教区長 ④カチャーシーで盛り上がる参加者 ⑤創作演舞を披露する二世・青年メンバー

沖縄の「ファミリーフェスティバル」に2500人が参加 “孝情 お盆 解怨”をテーマに開催

「海の日」にふさわしく青く晴れわたった天候に恵まれた7月16日、「2018 孝情 お盆 解怨 ファミリーフェスティバル in 沖縄」が沖縄県内の会場で開催され、新規ゲスト800人や有識者38人を含む約2500人が参席しました。

フェスティバルでは、まず未来を担う沖縄の二世・青年30人が、地元の英雄を題材にした若さ溢れる創作演舞を披露しました。

司会による開会宣言のあと、沖縄で唯一のプロのオーケストラによる演奏が会場全体を魅しました。

続いて、威鎮模沖縄教区長による主催者挨拶、来賓による挨拶などのあと、メインスピーカーとして登壇した徳野英治会長は、結婚の意義と価値や「無償の愛」などについて分かりやすい言葉で語り、参加者は熱心に耳を傾けていました。

引き続き、韓国・清平修鍊苑の李命官副苑長が特別講義を行い、清平役事の大きな恩恵について説明したあと、清平役事の時間となりました。

役事には、新規のゲストもVIPも一生懸命に参加。ある議員は「体が軽くなった」と感想を述べ、あるオケス

トラ関係者は「楽しい！力が湧いてくるね～！最高だね～！」と大いに喜んでいました。

フィナーレでは、世界的に有名な地元沖縄の「園田エイサー」が迫力とキレのある演舞を披露し、最後を飾る沖縄の手踊り「カチャーシー」が始まると会場全体の盛り上がりは最高潮に。ステージに上がって踊り出す参加者が続出しました。

最後に、前盛宏繁・沖縄家庭教会長のリードで億万歳四唱を行い、大盛況のうちにフェスティバルは閉幕しました。

参加した教会員からは「今回のイベントに与那国島やその他の離島からも氏族が来てくれました。家庭連合をよく知らなかった氏族も大会の内容に感動し、最後には涙を流して舞台上がり踊っていました」「今回誘ったゲストは、徳野会長の祖父母の愛の話に感動し、『祖父母を思い出して涙が出た。素晴らしいのは、やはり愛だね』と話し、とても喜んでいました。このイベントで大変感動したそうで、誘ったことに感謝されました」などの証しが寄せられています。



①宗谷岬で行われた「出発式」で ②宗谷岬をスタートする日韓のライダーたち ③前夜祭で記念撮影する日韓の指導者とライダー ④前夜祭で歌を披露する韓国婦人会メンバー

南北統一、日韓友好、そして世界平和を祈願 日本最北端の稚内で「PEACE ROAD」出発式

7月14日午前8時、「PEACE ROAD 2018 in 北海道 宗谷岬出発式」（主催・同実行委員会）が、日本最北の地・宗谷岬に建てられた「日本最北端の地の碑」の前で行われ、日本における「PEACE ROAD」がスタートしました。

それに先立ち、13日午後7時から、稚内市内のホテルで、「前夜祭」が行われ、約120人が集いました。今回は、梶栗正義 UPF 日本会長と宋光奭 UPF 韓国会長が駆け付け、前夜祭と出発式に出席。また韓国から5人のライダーが日本の「PEACE ROAD」に参加し、稚内から函館まで北海道を縦走横断する予定です。

前夜祭では、主催者の清水誠一実行委員長が「世界平和のために日韓・日露トンネルの成功を願っています。北海道からシベリアまで陸路を通し、稚内からヨーロッパまで繋がることを願っています」と力強く挨拶。

また、来賓による祝辞のあと、梶栗会長は「南北統一、日韓友好、世界平和という平和の祈りが、ここ稚内から世界に広がっていきました。世界平和を政治家ばかりでなく、民間から祈り、汗をかいてきました。稚内は世界

の希望なのです」とこれまでの取り組みを称えました。

また、宋会長は「1983年の大韓航空機爆破事件について多くの韓国人が忘れていなかで、慰霊塔を建立し、『世界平和公園』と名付けて慰霊してくださっていることに感動しました。稚内が持っている夢は世界平和であると実感しました」と語りました。

第2部では、「南中ソーラン」の演舞や韓国婦人会による合唱が披露され、最後に共に手をつないで心をつなげて「統一の歌」を歌いながら、出発式を前に参加者の心と心をつなぐ時間となりました。

翌14日は、出発式の1時間前に、宗谷公園にある「祈りの塔」に有志が集まるなか、大韓航空機墜落事件で犠牲になった269人の霊を慰めるため、梶栗会長と宋会長が日韓両国を代表して折り鶴を手向けました。

その後、宗谷岬にある「日本最北端の地の碑」の前で出発式が行われ、集まった40人余りの人たちが見守るなかで、熱い激励と応援を受けて日本と韓国のライダーたちが出発していきました。